

1 主題名 友達のために【友情・信頼】小学校第5学年及び第6学年 B-(10)

2 ねらいと教材

- (1) ねらい 友達と互いに信頼し合い、高め合いながらよりよい人間関係を築いていこうとする心情を育てる。
- (2) 教材名 「友の命」(東京書籍「新しい道徳5」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

「友情・信頼」の内容項目に関して、高学年では、「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」としている。このことは、中学年の内容項目「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」を受け、お互いの信頼をもとに真の友情を育てることを目指している。

児童は、友達関係において、集団をつくり、特定の友達との関係を深めることが増えてくる。また、今まで以上に相手を意識していき、友達関係が学校生活に影響を与えることもある。その一方で、児童は、互いの長所を認め、信頼し、相手の立場になって考えようとする意識が低く、互いを高めていく友達関係を築くまでには至っていない面が見られる。

そこで、相手を信頼し、相手の立場になって考え行動したり、励まし合ったりすることで友情が一層深まることに気付かせたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態と教師の願い

実態調査(男\*人 女\*人 計\*人) 令和\*年\*月\*日調査

質問事項	○ 友情がある関係とは、どのような関係ですか。(自由記述)
回答	・仲よし *人 ・信頼がある *人 ・遊べる *人 ・友達 *人 ・考えたことがない *人 ・分からない *人 ・その他 *人
質問事項	○ 友達がいてよかったと思ったことはありますか。
回答	ある *人 ない *人
質問事項	○ 「ある」と答えた児童の主な理由(自由記述)
回答	・楽しい時 *人 ・助けてくれた時 *人 ・相談にのってくれた時 *人 ・慰めてくれた時 *人 ・その他 *人

アンケートの結果から、「友情がある関係とは、どのような関係ですか。」に対し、「仲よし」、「遊べる」、「友達」と回答した児童が\*人、「考えたことがない」、「分からない」と回答した児童が\*人いることから、友情に対しての理解を深めている児童が少ないことが分かった。次に、「友達がいてよかったと思ったことはありますか。」に対し、「楽しい時」、「助けてくれた時」、「相談にのってくれた時」等と回答しており、児童にとって、友達の存在が日常生活において大きく、困ったときに助けてくれる存在であると認識している児童がいることが分かった。一方で、信頼関係から成り立つ友情に対して、相手を思い、友達関係を築いていこうとするまで考えていないということが分かった。また、友情が信頼関係によって成り立っていき、友情を深めていくには、信頼関係が大切であることまで深く理解している児童が少ないことも分かった。

そこで、本時の学習では、相手を分かり合おうとする気持ちが信頼に繋がり、互いの言動に心をこめて、行動を繰り返す、その積み重ねから、友情や信頼関係をより深めていくことを理解させたい。

(3) 教材について

本教材は、友のために命を投げ出して助けようとする主人公と、その気持ちに伝えようとする友との話である。話の冒頭から、二人の間には互いを信じ合う心があり、それは疑い深い王様の言葉や周囲からの冷笑にも揺らぐことはなかった。主人公と友が再会したとき、互いの友情は更に深まり、王様の心までも変えてしまう。友情を深めるための大切な心情や態度を学ぶことのできる教材である。導入、展開、終末における発問の工夫、シンキングツールの活用、板書構成の工夫による、児童の問題意識を高め、主体的に考えるための指導方法の工夫を通して、児童の道徳的価値への理解を深め、ねらいに迫りたい。

#### 4 学習指導過程

ねらい 友達とともに信頼し合い、その信頼を裏切らない行動をしようとする心情を育てる。			
	主な活動 ○発問 ◎主発問 □補助発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 ⑧評価
導入	<p>1 友情・信頼についてのアンケートの結果を提示し、経験を想起する。</p> <p>2 現在の友情・信頼についての考えを認識する。 ○ 友達と友情がある関係とは、どのような関係ですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友情は必要。</li> <li>・友情は必要だけ理由は分からない。</li> <li>・仲よし。</li> <li>・遊ぶ関係。</li> <li>・信頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意識調査の結果から、他者の考えを知り、道徳的価値への動機付けを図る。</li> <li>・自分の道徳的価値についての考えを表現することで、問題意識を高め主体的に考えられるようにする。</li> </ul>
展開	<p>3 本時では、「友の命」のピアスのために尽くそうとするデモンと、必ず約束を果たそうとするピアスの道徳的価値について話し合う。 ○ デモンはどんな気持ちからピアスの代わりになろうとしたのか。 □ すごい、先生には無理だな。 □ 先生も絶対に同じことするよ。 ○ ピアスはどんな気持ちだったか。 □ 先生だったら、その場に絶対に戻ってこないよ。自由になったんだ。 □ 絶対戻るよね。  (個人・対話) ◎ いよいよこくになりました。一だん、二だん、・・・その時、自分がデモンならこの場面でどのようなことを言ったり、考えたりしますか。 □ 後悔はしていないよね。 □ 自分からピアスと代わったんだよね。 □ 何に後悔しているの。友達だったことかな。後悔するかな。約束は自分でしたこと、自分の判断だよ。  (個人・対話・議論)</p> <p>4 現在の自分自身の友情・信頼関係の状況から考える。 ○ 友達のことを考えて、友情を深めていくためにはどうしたらいいかな。 ○ 友達のことを考えていない、友情が深まらない原因になることはどんなことかな。  (個人・対話・議論)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達だから。</li> <li>・仲がいいから。</li> <li>・信頼しているから。</li> <li>・嬉しい。</li> <li>・感謝している。</li> <li>・まだ信じる。</li> <li>・友達だから帰ってこなくていい。</li> <li>・きつと何かあったんだ。</li> <li>・後悔している。</li> <li>・何で帰ってこないんだ。</li> <li>・残念。</li> <li>・諦める。</li> <li>・信用する。</li> <li>・裏切らない。</li> <li>・相手のことを考える。</li> <li>・思いやりをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行為のみを問題として発言や記述をしている児童には、補助発問を通して、根拠を問い、道徳的問題として考えられるようにする。</li> <li>・王様の性格や「互いに信頼し合う関係」など存在しないという考えに触れる。</li> <li>・児童にとって日常生活とかけ離れている教材内容のため、児童が自分との関わりで、考える必然性や切実感を持ち、道徳的価値について理解が深められるように、児童のつぶやきや発言に対して、問い返しの工夫を行っていく。</li> <li>・事前の意識調査を生かし、意図的な指名をしたり発問に対して、時間配分を工夫したり、児童の道徳的価値に対して、考え続けられるようにする。</li> <li>・自己内対話や他者との交流で、自分の考えのよさや課題に気づき、道徳的価値に対して、自覚を深めていけるようにする。</li> <li>・道徳的価値について理解が深められるように、児童のつぶやきや発言に対して問い返しの工夫を行う。</li> </ul>
終末	<p>5 友情・信頼について自分の考えを再認識する。 ○ 友達と友情がある関係とは、どのような関係ですか。</p> <p>6 これまでの自分について振り返る。</p> <p>7 説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信じ合える仲。</li> <li>・自分のことだけを考えていてはよくない。</li> <li>・相手を信用する。</li> <li>・相手を助ける。</li> <li>・信頼関係。</li> <li>・今までは、自分のことしか考えられなかった。</li> <li>・これからは相手のことも考える。</li> <li>・先生も悩んだりするんだ。</li> <li>・難しいことなんだな。</li> <li>・私にもできそうだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えの交流後に、導入時と同一の発問を再提示して、道徳的価値への理解が深められるようにする。</li> <li>・今までの自分、これからの自分について、まとまりとしての振り返りを行う際は、導入時の自分の考えと比較して何について考えて、何を学んだかを記述する。</li> <li>⑧自分の意思や判断に基づいて、納得できる考えを導き出している。</li> </ul>